

## 令和2年度 第2回 堺市スポーツ推進審議会 会議録

1. 日 時 令和3年2月8日(月)  
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催
2. 委 員 上野充司委員、西川良平委員、広田新一委員、  
ト部啓一委員、島木伸也委員、田中義昭委員、  
上野十次郎委員、清川健一委員、野田善生委員、  
山田勝彦委員、中西一郎委員、平野祐子委員、  
中敬三委員、田中ひかる委員、坪内伸司委員、  
西山哲郎委員、藤本淳也委員
3. 案 件  
(1) 堺市スポーツ推進プラン(案)に対するパブリックコメント実施結果について  
(2) 第2次堺市スポーツ推進計画の指標に対する評価について  
(3) その他事項について

### 4. 会 議 内 容

- (1) 堺市スポーツ推進プラン(案)に対するパブリックコメント実施結果について  
事務局より堺市スポーツ推進プラン(案)に対するパブリックコメント実施結果について報告。委員より以下の意見があり、事務局より回答。

#### 【ト部委員】

パブリックコメントでは、義務教育学校に関わるご意見もあり、教育委員会と連携した丁寧な対応をお願いしたい。

#### 【事務局】

義務教育学校に関わる意見については、教育委員会の所管課の見解を確認している。子どもたちのスポーツ・運動の推進にあたっては、教育委員会との連携が不可欠であり、子どもたちがスポーツに親しむ環境を整え、楽しみや充足感を得て、健やかな生活を送ることができるよう、学校体育や部活動における取組を進める。

#### 【平野委員】

「堺市障害者スポーツレクリエーション大会」や「連合運動会」、「堺市中学校総合体育大会」は、各大会がもつ目的や主旨、意義を大切にして今後も継続していくべきである。

「堺市民オリンピック」については、参加要件の見直しや種目、内容についても検討し、「市民が老若男女を問わず、誰でも気軽に参加できるスポーツイベント」というコンセプトの企画を期待する。

**【事務局】**

既存イベントの開催に限らず、民間企業等と連携するなど、年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、誰もが気軽に参加できる取組を推進する。

「堺市民オリンピック」については堺市民オリンピック委員会でも、引き続き開催内容について検討していく。

**【藤本会長】**

「大会」「施設」「経費」「市民」などについてのご意見があり、これらに対する「市の考え方」は、現状を踏まえて適切に回答がなされている。

一方で、堺市が政令指定都市になったように、社会やスポーツ界が構造的にも変化してきた中で、特に大会開催の意義や目的を踏まえた上での大会やイベント「継続」に対する疑問には、真摯に検討する必要がある。

**【事務局】**

大会の開催にあたっては、社会情勢や市民ニーズに応じた取組となるよう、開催内容や手法について検討していく。

**【藤本会長】**

市内外の関連組織との「連携」についてビジネス界で「オープンイノベーション」が主流となり、新たな価値が高いレベルで創造されている。スポーツ行政においても、積極的に産官学連携によるスポーツ行政によりチャレンジすることで、堺市のスポーツの社会的価値観に加えて経済的価値もより創造できると思う。

**【事務局】**

取組にあたっては、ご意見を踏まえ、民間企業、教育機関等と連携し、社会的価値だけでなく、経済的価値につなげる視点で関係部局とも連携していく。

**【藤本会長】**

数値目標の達成のための具体的戦略について堺市スポーツ推進プランにおける目標1、2を達成するための具体的なプランが示されていない。年齢と性別を考慮した、具体的なマーケットセグメント単位の目標と具体策を立てておくべきである。

**【事務局】**

堺市スポーツ推進プラン（案）では、スポーツ推進に係る方向性として取組内容を掲載しているが、目標達成に向け個別事業の実施に際し、目標1、2を達成するための具体的な目標を設定し、進捗管理を行っていく。

**【中西委員】**

これからの時代、考え方や価値観も大きく変わると思う。世の中の変化を予測し対

応できる力をつけておく必要がある。

**【事務局】**

ご意見を踏まえ、社会情勢に応じた取り組みを展開していく。

**【中西委員】**

東京 2020 オリンピック・パラリンピック後のスポーツによる地域活性化について堺市にスポーツを根付かせるため、具体的な取組を市民に示し、「生活のスポーツ化」を普及、発展させる必要がある。

**【事務局】**

J-GREEN 堺やくら寿司スタジアムをはじめとするスポーツ資源を有効活用し、魅力あるスポーツイベントを実施するなど市民が身近にスポーツに触れる機会を提供する。加えて、SNSをはじめ、様々な広報媒体を活用した情報発信を行うなど、市民の生活にスポーツを取り入れ、根付かせるための取組を実施する。

**【中西委員】**

コロナ禍での会議の在り方について、今回の審議会は書面で会議が開催されることになったが、収束までにはまだ時間がかかると予想される。

with コロナや新規ウイルスにより、対面での会議が困難な事態においてリモート会議を開催するなど、スポーツ推進課の対応策を検討してほしい。

**【事務局】**

今回の審議会は、緊急事態宣言期間内の開催であったため、やむを得ず書面開催となった。

Web 会議については、現在、専用端末の利用時間が原則 1 時間以内となっていることや使用台数に限りがあるが、今後環境整備を含め会議の運営方法を検討する。

**【中西委員】**

市民から寄せられた意見内容について行事の中止を求める内容が多く、厳しい内容が寄せられている印象を受けた。中止ではなく、大会や行事へのマイナスイメージ改善を期待する意見内容が欲しかった。

**【事務局】**

パブリックコメントで寄せられたご意見内容を真摯に受け止め、今後のスポーツイベント等の開催についてよりよいものとなるよう各関係機関と連携を強化する。

**【中西委員】**

回答の作成にあたっては、外部団体等の関係者にも直接意見を求めて本文を作成しているか。

項目によっては、スポーツ・運動の普及や発展のための指導、助言が出来ても、計画決定までの意見を述べる事が出来ない内容も含まれているのではないかと。

その他、「大会の経費」、「事故・怪我の発生件数」、「大会の日程」、「災害の基準」等については具体的な数値を示せないかと。

#### 【事務局】

各回答については、所管部署に現状を確認した上で作成している。

ご意見については、真摯に受け止め、今後実施する事業の中で実現できるよう関係機関とも連携して取り組む。

また、運動・スポーツに関する指標等についても、具体的な数値が示せるものについては、情報提供に努める。

#### 【中西委員】

障害者スポーツレクリエーション大会について障害者の方々が、大阪府や大阪市の活動の雰囲気参考に魅力的なイベントやスポーツ教室を堺市にも根付かせる取組を数多く実施することが大切である。

障害者スポーツ大会の関係者によると、堺市の障害者は大阪府や大阪市の障害者施設でトレーニングや練習を積み重ねてきた経緯があり、堺市が政令指定都市になってからは、市内の行事やイベントを開催しているが、気心知れた仲間や指導者との繋がりが今も大阪府や大阪市の行事やイベントに参加していると聞いている。

大会の参加者が少ない理由は、政令指定都市への移行による組織体制の変化にうまく対応できなかったことが要因であると考えられ、大会参加者の減少は現状のままでも検討しても改善が見込めないのではないかと。

#### 【事務局】

ご意見を踏まえ、対象者のニーズや実態把握に努め、大阪府や大阪市など、他の自治体や団体で実施されているスポーツイベントや教室等を参考に、堺独自の魅力あるコンテンツを検討し、大会の発展や障害者と健常者の交流機会充実に向け、より多くの市民に参加いただける取組を行う。

#### (2) 第2次堺市スポーツ推進計画の指標に対する評価について

事務局より第2次堺市スポーツ推進計画の指標に対する評価について報告。委員より以下の意見があり、事務局より回答。

#### 【西山委員】

P4、P6における「年代別のスポーツ・運動実施頻度」と「1日30分以上の運動やスポーツの実施頻度」について、20代女性の数値が低い。20代女性に合った対策として、室内温水プールの利用が考えられる。堺市内は人口と比べて同種のプール数が少ない。金岡公園のプール施設を改築する際は、室内プールを整備してはどうか。

また、P8 における「スポーツ・運動を主に実施している時間帯」について、20 代女性は深夜帯に運動を実施している割合が多いことから、運動施設の営業時間を延長することや、防犯対策を兼ねてウォーキング、ランニング用の照明設備を行うなどの対策が重要と考える。

#### 【事務局】

ご指摘のとおり、20 代女性の「週 1 日以上スポーツ・運動実施率」は 40.0%、「1 日 30 分以上の運動を週 1 日以上行っている割合」は 28.5%となっている。年齢別や性別などそれぞれのライフスタイルに応じたスポーツ・運動が実施できるよう、温水プールの活用も含め検討する。

また、金岡公園プールを再整備する際には、関係部署と連携し、整備内容の調整を行う。

「スポーツ・運動を主に実施している時間帯」について、堺市スポーツ推進プランでは J・GREEN 堺において照明設備を増設し利用時間延長による利用者数の拡大を図ることを記載している。

#### 【上野充司委員】

ビジネスパーソンや子育て世代の運動不足について、スポーツの実施によって得られる効果を、健康増進などの身体的効果にとどまらず、精神的な効果や他者と関わる機会の増加など、運動・スポーツの持つ意義についても啓発してはどうか。

#### 【事務局】

ご意見のとおり、スポーツを通じて幅広い世代が、交流を深める機会を提供し、身体的な効果以外にもビジネスパーソンや子育て世代のストレス軽減、コミュニケーションの活性化を通じて精神的な効果、社会的効果につながる取組を啓発していく。

#### 【平野委員】

市政モニターアンケートの回答者属性の年齢別の割合において、70 歳以上の割合が全体の約 4 分の 1 を占めているが、これは人口比に基づいたものなのか。

#### 【事務局】

市政モニターアンケートは、堺市の人口分布に基づき、市内在住、在勤、在学の 18 歳以上の方、500 名を対象にアンケートを実施している。

令和 3 年 1 月時点での 20 歳以上の堺市民の年齢属性については、20 代：12.2%、30 代：12.8%、40 代：18.4%、50 代：16.3%、60 代：13.0%、70 代以上：27.3%となっており、今回実施の年齢属性とほぼ同じ結果となっている。

今後、市政モニターアンケート以外の無作為抽出調査についても検討していく。

#### 【平野委員】

P15 の中学 2 年生の 1 週間の総運動時間において、男女ともに二極化がみられる。

この二極化が成人後の運動習慣に影響を与えるものであるものであるので、早急な改善策を講じる必要があるのではないか。

**【事務局】**

中学校2年生の男女ともに1週間あたりの総運動時間は、全国平均と比べて0分の時間が多くなっているため、スポーツを親しむ環境を整え、楽しみや充足感を得られるよう、令和3年4月施行の堺市スポーツ推進プランに基づき、学校教育活動やこども会活動において取組を推進する。また、トップレベルチームと連携した教室の開催を通じてスポーツの関心向上を図る。

**【藤本会長】**

今回の調査では有効回答数があまりに少ない。  
そのため、年代別分析において調査方法と回答者の特性が分析結果に大きく影響を受けている可能性がある。また、回答者全体に占める70歳以上の割合が高いことが、全体の値に大きな影響を与えていると考えられる。  
今回の評価において、分析結果の信憑性とそれをもとにした目標の妥当性に、今回の調査における調査方法や回答者の属性などの特性が影響を与えている可能性があることを認識し、確認しておく必要がある。

**【事務局】**

第2次堺市スポーツ推進計画の指標に対する評価を行うための基礎データの収集については、市政モニターアンケートによる調査方法を活用した。  
ご指摘のとおり、有効回答者数が少なく、年齢属性に大きく影響を受けている可能性があるが、堺市民の年齢構成と今回実施の年齢属性はほぼ同じ値となっており、同計画の指標に対する評価としては今回の数値をもって評価を行った。  
次期プランの進捗管理や事業評価においては今後Webアンケート等も活用し、評価指標・数値目標の妥当性も検討していく。

**【中西委員】**

P3 スポーツ実施率について、イベント等を企画する際、実施種目が限られていても、実施回数・参加人数をできるだけ多く設定し、多くの人が運動・スポーツに参加できる機会を増やす視点が大切ではないか。

**【事務局】**

コロナ禍において、スポーツイベントの開催については縮小傾向にあるが、オンラインの活用を検討するなど、多くの市民の方に参加していただける取組となるよう工夫して実施する。

**【中西委員】**

P10 新型コロナウイルスへの対応について、コロナ禍で運動やスポーツの実施率の

低下が懸念されるなかで、新型コロナウイルスの影響による新しい生活様式に対応した運動・スポーツの推進について検討し、計画に盛り込めばどうか。

**【事務局】**

ご指摘のとおり、コロナ禍において市民のスポーツ実施率は減少している。そのため、堺市スポーツ推進プランではコロナ禍でもスポーツが実施できるよう ICT を活用し、自宅でできる運動のリモート配信による紹介を行うなど、新しい生活様式に則したスポーツの実施機会の提供に取り組む。

**【中西委員】**

P14 体力テストの普及について体力テストの実施にあたっては、大学と連携した取組を継続する一方で、実施から評価まで丸投げにならないよう留意して欲しい。市民に体力テストの重要性を理解してもらうための PR やキャンペーンを行い、体力テストの参加を通じて自己の体力等に関心を持ってもらう必要がある。

**【事務局】**

体力テストは、大学と連携して実施しており、当日の測定や記録を協力していただいている。評価の実施は当課で行っており、評価結果を踏まえた取組の改善や体力テストの意義の啓発や PR を行っている。今後も、大学と連携して体力テストを実施し、市民の健康への意識を高め、スポーツの実施機運の醸成を図る。

**【中西委員】**

P16 の運動の好きな小中学生の割合について、運動の好きな小中学生の割合は比較的高い数値ではあるが、好きではないと答えている子どもに対して、どうして好きではないのかということと一緒に考えて対策を講じていく必要がある。

**【事務局】**

運動が好きではない小中学生の実態把握に努め、生活習慣など、要因に応じた取組を検討する。運動が好きではない小中学生でも楽しめるよう、学校教育活動や子ども会活動、スポーツ少年団活動等の充実により、子どもたちがスポーツに親しむ環境を整える。

**【中西委員】**

P21 のスポーツボランティアについて、ボランティアの定義や認識が個人によって違うのではないかと。ボランティアにどのような種類、役割があるのかを知る機会が少ない。このような内容を周知し、ボランティアについて知ってもらうことが大切なのではないかと。

**【事務局】**

スポーツボランティアの定義や種類、役割について市の HP 等で示し、ボランティアの内容や実施機会の情報発信を行う。

また、東京 2020 オリンピック聖火リレーやワールドマスターズゲームズ 2021 関西において、スポーツボランティアを募り、参加を機に継続的なボランティア参画やスポーツ実施機運の醸成を図る。

(3) その他事項について

事務局よりスポーツ推進審議会条例施行規則の改正について報告。